

## 会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称  
令和元年度第1回美里町在宅医療介護連携推進会議
- 2 開催日時 令和元年6月27日（木）午後6時35分から午後7時39分まで
- 3 開催場所 美里町健康福祉センター 2階研修室
- 4 会議に出席した者
  - （1）委員  
横山眞和委員、玉手英一委員、大蔵暢委員、佐々木義夫委員、木村泰之委員  
永澤もとえ委員、尾形文克委員、伊藤恵委員、平塚莉沙委員  
（欠席：野田清一委員）
  - （2）事務局  
渡辺克也、伊藤博人、相原浩子
  - （3）その他  
涌谷町福祉課包括支援班 佐々木敦、早坂宏美
- 5 議題及び会議の公開・非公開の別  
議事
  - （1）事業の振り返り
  - （2）今年度の事業計画
  - （3）現在の課題とその解決に向けた取組について
  - （4）「美里町の医療介護福祉の便利マップ」について  
会議の公開・非公開の別  
公開
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴人の人数  
0人
- 8 会議資料  
別紙のとおり

## 9 会議の概要

署名委員 横山眞和委員、佐々木義夫委員

### (2) 議事

横山委員長	<p>それでは議事に入ります。</p> <p>議事の1番目の事業の振り返りと2番目の今年度の事業計画について事務局から説明をお願いします。</p>
相原課長補佐	<p>それでは相原の方から説明をさせていただきます。</p> <p>はじめに(1)の事業の振り返りについて説明をさせていただきたいと思います。</p> <p>資料の1をご覧ください。美里町にとっては、この在宅医療介護連携推進事業の課題と目標というところを、皆さんと協議させていただいて、ここにあるとおり設定をしていたところです。</p> <p>課題については専門職でもわからない制度や病気などがあるが専門職も町民もどこに聞いたらよいのかわからないというところで、事業所とか医療機関の一覧ですとか、専門職の役割というのがわかっていけたらよいのではないかとこのところ、先ず1つの課題というところで挙げられておりました。</p> <p>もう1つは顔がわからないと、なかなか相談がしにくいところで、顔が見えるような関係づくりが必要なのではないかというのがありました。</p> <p>もう1つ、専門職が連携の必要性を分からないと連携ができないというところで、専門職自身のスキルアップが必要ではないかというところがありました。</p> <p>そこで目標としたのが、困ったことを解決するために相談できる、住民サービスが上手く使える住民ということが1つ、もう1つを町民の困ったことを支援できる、考えられる専門職、3つ目として町民を支援できる医療と介護の連携体制というところを掲げておりました。</p> <p>この課題を解決し、目標を達成するために昨年度までに展開した事業というところで資料2をご覧くださいと思います。</p> <p>左端のアからクの表記がありますが、国の方で指定しております在宅医療介護推進事業の取組の項目になっております。ここに沿って事業をどのように行ってきたのかを整理した資料となります。</p> <p>平成30年度のところをご覧くださいと思います。(ア)地域の介護医療の資源の把握というところで昨年度は11月に町民向けの「美里町の医療介護福祉の便利マップ」を全世帯に配布させていた</p>

いただきました。一部ではありますが大変役に立つとの声を聴いております。(イ)在宅医療介護連携の課題の抽出・対応策の検討として連携推進会議を3回開催させていただきました。もう1つとして今年の1月、在宅医療・在宅介護の連携推進に関するアンケートの実施を行っております。要支援1・要支援2の方と町内の居宅介護支援事業所のケアマネジャーを対象にアンケートを行いまして、そこから出たものについて推進会議の方で検討させていただいております。(ウ)としまして切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進というところで第2回目の推進会議の時に手持ちの統計の方から考えられる課題について、この会議の中で検討させていただきました。そこで出た課題とか考えられることについて、先ほどのアンケート調査を行って具体的な課題というところを探ったところです。(オ)としましては在宅医療・介護連携に関する相談支援というところで、美里町の方では在宅医療等に関する窓口は包括支援センターで良いのではという話で進めております。平成29年度から広報の方で包括支援センターのことについて窓口だよという趣旨の記事を掲載してきております。

(カ)医療介護関係者の研修としまして昨年は涌谷町と共催で、福祉事務所の御協力もいただきまして、遠田郡として介護や医療の従事者の方に対する研修会を開催しております。ここではパネルディスカッションも実施しております。(キ)地域住民への普及啓発というところで、こちらも昨年度は7月に町民公開講座ということで、大蔵先生にお話をいただきながら、パネルディスカッション形式で情報交換会を行っております。あと、もう1つ昨年度から新たに取組んだこととしまして、町のホームページに事業の掲載ですとか作成した便利マップを掲載しております。(ク)在宅医療介護連携に関する関係市区町村の連携ということで昨年度も北部保健福祉事務所の高齢者支援班の担当の方と協議をしながら事業について進めてきておりました。他には涌谷町と昨年度から事業の連携を図っております。本日もなのですが両町の会議に担当者が相互で出席することとか、町民公開講座の企画についても一緒に行ったり、両町の推進会議に出席いただいております委員の方々との顔合わせも行いました。

このような中で、今年度は何をやるかということについて、平成31年度(令和元年度)と書いてある欄のところに記載しております。

先ず(ア)、昨年度は町民向けマップを配布したと先ほど説明しましたが、配布して終わりという事ではなく、今後、更新したり新しいものを作るということについても検討していかなければならないという

	<p>ころで、令和3年以降になるかなとは思ってはいるのですが、便利マップの作成内容の検討を行っていただければと思っておりました。</p> <p>(イ)連携推進会議を年間3回ほど開催させていただきたいと思えます。(ウ)切れ目の無い在宅医療・在宅介護の提供体制の構築推進というところで医師会との連携というところを考えていきたいと思えますが、これについては後でまた詳しく説明させていただきたいと思えます。(カ)医療介護関係者の研修というところについては昨年度と同様に涌谷町と一緒に検討を行いながら実施をしていただければと思っております。(キ)についても同じように町民向けの研修会、町民公開講座を開催したいと思っております。こちらについては既に企画をさせていただいております。7月24日に開催したいと思っております。本日出席いただいております訪問看護ステーション伊藤所長のほうにお話をいただきながら、昨年度は大規模な感じだったのですが、今年度は身近な距離でやり取りができるような人数で研修会を開催したいと考えておりました。他には引き続きホームページへの記事を継続して掲載していきたいと考えております。</p> <p>(ク)関係市区町村との連携に関しては、引き続き北部保健福祉事務所の高齢者支援班と涌谷町と一緒に協議や事業連携を図るということを行っていただきたいと思っております。</p> <p>また、在宅医療の事業ではないのですが欄外に書かせていただきました医療介護従事者を対象としました介護サービス事業所連絡会というものを地域包括支援センターで開催していますが、こちらは多職種連携を目的として研修を行っております。こちらを開催しながら顔の見える関係というものを作っていけたらと思っておりました。新たに行いたいと思っていたのが、地域ケア個別会議というものです。ケアマネジャーと他のリハ職や栄養士などの多職種の方と、ケアマネジャーが作成しているケアプランの対象者に対してのケアについて、事例検討をしていきたいと思っております。そうすることで地域の状況を把握して、ここから考えられる課題というのを、こちらの推進会議にあげて皆さんに協議いただくという事をできたらと思っております。</p> <p>以上となります。</p>
横山委員	今の事務局からの説明について、何か質問等ありますか。
大蔵委員	7月24日の公開講座の時間帯は？
相原課長補佐	開催時間は午前中として10時から11時30分で、会場が駅東地域交流センターを予定しております。

大蔵委員	(開催時間帯としては)専門職がなかなか出にくい時間帯ですよ ね?
相原課長補佐	こちらはあくまでも町民を対象にと考えておりまして、平成29年度に大蔵先生に御講演いただいた際感じたのですが、専門職と町民の方が一緒になると、どうしても焦点がぼやけてしまうものになってしまいますので、あくまでも町民を対象にとということで企画しました。
横山委員	公開講座への参加者は、もう募っているのですか?
相原課長補佐	7月1日発行の広報紙に記事を掲載することと、保健推進員さんが比較的若い世代の方になると思うので、この方々にはダイレクトメールを送ろうと思っておりまして。 日中の研修となると高齢者の方の参加が多くはなるのですが、聞いてほしい方にはダイレクトメールを送ろうかと思っておりまして。
横山委員	他に何かありますか?
玉手委員	医師会との連携について、遠田医師会だけではなく大崎医師会とかの連携についてはどのように考えていますか?
相原課長補佐	今年度考えていたのは、遠田郡医師会とのことです。後でまたこの点について御説明しようと思っておりましたが、もしよろしければ、このままその部分についてお話をさせていただいてもよろしいですか?
	(委員「はい」の声)
相原課長補佐	(3)の現在の課題とその解決に向けた取り組みについてというところなのですが、今、玉手委員のほうからお話のありましたことについてです。資料3をご覧くださいと思います。 これまでの課題と解決に向けた取り組みということで、この事業は決して(ア)から(ク)だけの事業を一生懸命やるのではなく、あくまでも在宅医療と介護連携というのを、どのように上手く推進していくかというところを取り組む事業になります。そう考えた時に、今までは医療機関ですとか従事者間の連携というのが足りないのではないかという課題があって、それに対する取組というのを行ってきました。課題に対する取組としましてはマップを作成するとか、広域における医療を考えていく機会ということで涌谷町との連携というのを進めてきたところです。涌谷町とは、うちの町は医療機関が少ない中で涌谷町に入院される方も多いという現状ですとか、涌谷町の町民に関しては涌谷町に無い入所施設、介護のサービスを美里町にある介護事業所を利用するというところもありましたので、一緒に取り組んでいくほうが、この事業については上手くいくのではというところで、

	<p>進めてきたところでした。その中で新たな課題といたしますか考えというところが、先ほどお話のありました医師会との連携ということです。</p> <p>美里町・涌谷町の2町で遠田郡ということになっているのですが、医師会も遠田郡医師会という形になっております。医療や介護を考えていく場合、郡という単位で進めていくとなったときに医療についても遠田郡医師会という単位での連携が図れた方が、事業が上手く進むのではないかと、また、事業を進めるためだけではなくて医師会の状況とかも行政がよく理解しながら先生方と協議できた方が良いのではないかとということです。</p> <p>理由としましては、やはり遠田郡医師会、美里町・涌谷町2町で構成されておりまして、行政の取組をわかっていたり、医師会の考えとか方針というのを逆に私たちが理解しながらやっていくことで、町民に対して同じ視点ですとか方向性で取り組んでいけるのではと考えます。まずは遠田郡医師会と何か企画するというよりは話す機会を設ける等のやり取りを始めていけたらどうかなと思っております。</p> <p>そのあたりについて御意見を聞かせていただけると助かります。</p>
横山委員	<p>そういうことですけど、町が直接、遠田郡医師会に対して、これに関しての話し合いというのは無かったのですか？</p>
相原課長補佐	<p>なかったです。</p>
横山委員	<p>とりあえず遠田医師会と話し合いをしていないということであれば、一気に大崎と遠田で進めても話し合いはまとまらないような気がしますよね。</p>
相原課長補佐	<p>(遠田医師会に)何かをしてほしいとか、町と一緒にとかということの前に、まずは私たちがやっていることをお伝えすることを今までやっていなかったと思うのです。また、例えば医師会で地域の在宅医療に関して取組をどのようにしているのかなど、私たちが聞く機会がありませんでした。医師会の会議がどのように行われているのかや理事会等について、私たちが理解しながら先生方と顔馴染みになるとか、例えば1つでも理事会の中の話題にさせていただくとか、何か接点を持ちながら情報共有できると良いのではというところではありました。</p>
横山委員	<p>今の説明に対して御意見とかございますか？</p>
玉手委員	<p>大崎市や加美郡では結構進んでいるんですね。だから、今の状況を大崎市などに聞いてみて、大崎からも情報をもろうというやりとり</p>

	を是非、今後やって欲しい。遠田だけで固まってはいけないのではないかと思います。
相原課長補佐	実は先日、美里町と涌谷町の事務局で加美郡の事業担当者の方にお邪魔して、実際にどのようにやっているのかというところを聞いてきました。実際に医師会の先生方、会長さんのところに足を運んで研修会の御案内をしたりとか、御意見を伺ったりとかという、足を運びながらやっているところを伺ったので、そのあたり、すぐ同じにはできないにしても、こちらで足を運んでいくことを行っていけたらと思っております。
大蔵委員	遠田郡医師会の情報共有はそれでよいと思うのですが、町民の多くが大崎市に主治医を持っていることから、大崎市の医師会も地域包括ケアの委員会を開いているのです。その委員会をオブザーブさせてもらうとかよいかもかもしれません。大崎市ではどのような問題があるのか、どんなことを考えているのかというのが、もしかしたら涌谷町とか美里町に参考になるかもしれないです。
横山委員	大崎市の医師会ではこの課題の担当理事がいるんです。そのような部分を活かしてもらう形で、参考になると思います。
相原課長補佐	課題としては挙げさせていただいたのですが、先生方との情報とかのやりとりをしていくということは進めていったほうが良いということではよろしいですか？
	委員「進めていただきたい」の声
相原課長補佐	わかりました。具体的などころではないのですが、考えていたのがこの取組というところで郡という単位を考えたときに、この委員会についても美里町単独ではやっているのですが、今後、涌谷町と一緒にするとかというあたりも検討したほうが良いのかなと担当者としては思っていたのですが、委員の皆さんの御意見はどのようなものかと思っていたのですが、今、ここで決めるとかではなくて方向性としてどうなのだろうかと、もし御意見を伺えると助かります。
横山委員	確かに美里町だけではなくて涌谷は涌谷でやっているのです。で、お互いに話は聞きに行っても共通の方向性はないのでしょうか？だからやはり私は必要かなと思います。年にお互い何回かはこのように会議を開催してはいるのですが、合同の何かはあった方がよろしいと思う。
玉手委員	行政が別だから、結局、最終的に美里は美里で決めなくちゃいけない。会議の数が増えるのではないですか？
相原課長補佐	その辺はやり方を検討しなければならないとは思っています。会議

	<p>を1つにするとなれば、回数を多くではなくて、あくまでも1つの会議として運営する。あと、実際どうするかというあたりは涌谷町と協議しながら、各町の判断というものも必要かとは思いますが考えます。ただし、会議の回数が倍になるとか、そのようなやり方ではなくできればとは思っております。</p>
横山委員	<p>会議として一緒でも行政としては別、そのような考えでよいですね。結局2つの行政でどのような進め方、予算の割り振りまでいくと思うのですよね。その辺が結構町の単位としては難しいのではと思います。</p>
相原課長補佐	<p>今後、整理していきます。連携すればよいとか、事業を何かできればよいとかということではないので、今後の地域づくりを考えた場合、先ほど大蔵委員からも話がありましたけど、大崎市の状況も把握しておくとか動きを一緒にするのかというあたりを取り組めたらよいかなと思っております。</p>
大蔵委員	<p>新しい企画というか今やっていることは町民向けの啓蒙活動が主なのですが、それは単発じゃないですか？もっと継続的な、例えば数か月毎に涌谷町がやっているみたいな認知症カフェだとか、何かの町民を集めて勉強会じゃないですけど、小さくてもよいから社協と協力してやったりとか、そんな取組をやっていったらよいのではと思います。僕らお手伝いもできますし御検討いただきたい。</p>
相原課長補佐	<p>わかりました。</p>
横山委員	<p>いろいろと意見を頂戴しましたが、今のことに関してはどうですかね？意見などありますか？</p> <p>3番の現在の課題とその解決に向けた取組については入っちゃってるようなものですが、事務局のほうから後はなにかありますか？</p>
相原課長補佐	<p>本日、委員さん方からいただいた御意見を踏まえて、涌谷町さんとも協議しながら進めていくという方向でできればと思っております。進めていく中で会議のほうで状況をお伝えしながら御意見をいただきたいと思っております。</p>
横山委員	<p>一緒にやるとなると、今月は美里町で、来月は涌谷町でとか色々ある課題を順番に、研修会や住民向けの講演会などを定期的に行った方が住民の皆さんも入ってこれるのではないかと思います。</p> <p>大崎市医師会は人員が多いが遠田郡医師会は極端に少ない。限られた人数の中で構成する医師全員から協力いただけるかといえば、色々な事情で決してそうではないかと思います。</p> <p>まずは医師会事務局に行政の取組を話してみてもいいかなと思います。</p>



	か。
相原課長補佐	種々の取組みについては出来ることとできないことがありますから、大崎市医師会の動きなども把握して参考とします。
横山委員	他に委員の皆さん、何かありますか？
玉手委員	地域包括支援センターの窓口について、名前が浸透していないように感じています。相談の窓口となるのですから、もう少しわかりやすくすることはできないでしょうか？
相原課長補佐	地域包括支援センターについては、町のホームページをはじめとして広報紙や各種チラシで周知に努めているところではあります。 逆に何か良いアイデアはありますか？
佐々木委員	地域包括支援センターの名前自体が国で決められたものであるので仕方がないかもしれないが、長くて難しくて頭の中に入れ難いと思います。
横山委員	「問題が生じたり何か聞きたいことがあればここ!!」となるようにする必要はあるかと思います。
佐々木委員	機能としてはわかりますが名前が難しいです。
相原課長補佐	現在、地域包括支援センターの名前はわからなくとも、相談したいこと等あれば「さるびあ館」、「生き生きセンター」ということは最低限の情報としては浸透しておりますので、実務的には問題は無いかとは思いますが、だからといって、包括支援センターの役割となかなか浸透しておりません。少し考えていきます。
佐々木委員	ケース相談やニーズに対して知名度は高くなってきていることは間違いありません。ただし、その知名度の伸びは緩やかなものであると感じます。少しだけでよいですから加速させていく必要があるのではないのでしょうか？
相原課長補佐	地域包括支援センターの周知といいますか相談窓口については、御意見をいただきましたので、もう一度検討していきます。
横山委員	それでは(3)はよろしいですか？それでは次の(4)美里町の医療介護福祉の便利マップについて、事務局から説明をお願いします。
相原課長補佐	先ほども御説明させていただいたのですが、平成29年度については町内の事業所ですとか医療機関向けの便利マップを配布させていただきまして、昨年度については町民の方向けのマップを全戸配布しております。まだ1年経たないところではあるのですが、今後、情報も古くなりますし、新しいものにするという事を考えていかなければなりません。考えていたのは先ほども話しました、去年から涌谷町と事業を連携させていただいていることと、この事業を考えた時に遠

	<p>田郡医師会という郡という考え方で事業を考えていけたら良いのかと思ったので、マップの方も郡単位の物を作成するという事で進めていけたらと考えております。</p> <p>この作成年度については、涌谷町とも協議していかなければならないところなのですが、郡単位の視点で新しいものを検討していくという事について、御意見いただけたらと思います。</p>
横山委員	<p>いかがでしょうか？そのレベルの範囲であれば大崎市も範囲に入れて考えてみては？</p>
玉手委員	<p>役場を中心として20キロとかではどうですか？</p>
相原課長補佐	<p>その辺りも視点に入れながら検討してみます。南郷地域ですと医療圏や生活圏が石巻市寄りですし、小牛田地域は大崎市寄りとなり、そうなる範囲が広がってしまいます。まずは郡を考え、他のバリエーションについても検討していきたいと思います。</p>
玉手委員	<p>やはり難しいですね。</p>
横山委員	<p>段階的でも構わないので検討して行ってほしいと思います。 では、その他に入ります。何かありませんか？</p>
尾形委員	<p>今、ちょっと医療中心のお話になってたのですが、介護の方の現状として、ここ最近、事業所の倒産とか譲渡とか生じていて、介護職員の不足というものが大きな原因になっているようです。</p> <p>今、介護の資格を取得するのも昔より少し厳しくなって、初任者研修の受講が必要となっております。そのような教室に通う生徒も、かなり減っている状況です。</p> <p>なので、病院と介護をつなぐこの会議は、最終的には町民の方々に還元していかなければならないと思うのですが、介護サービスの提供というのが更に厳しい状況になっていく可能性が大いに出てきているというところなんです。</p> <p>特に訪問介護、施設の中に入っている訪問介護に対しては人員はいくらかは集まってくるのですが、在宅を回る訪問介護に関しては人員不足が続いている感じで、派遣に頼らざるを得ない事業所も増えてきております。例えば介護福祉士を1人、派遣を活用して雇い入れると年収の20%、60万とか平気で派遣会社へ支払うこととなります。</p> <p>そうなってくると事業所自体も人を雇うことによって運営が厳しくなるという状況になります。このことは介護の大きな課題となっている状況です。</p> <p>この地域資源についても何らかのことを考えていかなければ、せっかく会議で話したことが、最終的に地域に還元できなくなってしまい</p>

	ます。町でも何か取組を検討できないものでしょうか。
相原課長補佐	地域資源としての事業所の人材の重要性も認識しておりますし、現在、ヘルパーなどの人材不足が問題となってきたことは承知しております。しかし、町として方向性を考えるということも厳しい状況であります。
永澤委員	事業所だけでなく近所の方などの地域の力も必要ではありますが限界があります。事業所における人員不足は苦しく、深刻な問題です。働く方も年々高齢化してきているという問題もあります。
横山委員	行政で何か手立てはないものなのではないでしょうか？
佐々木委員	今までのやり方では先細りしていきただけです。介護人材は今後も少なくなると思います。 町でも何か方向性を示していただき、他とは違ったやり方でアプローチしてほしいと思います。事業所が人材派遣会社を利用して人を雇うのは費用がかかりすぎてしまう。
横山委員	給料が上がれば人は来るでしょうけど、現状ではそれも難しいでしょうね。
佐々木委員	現在、求人などで来る若い人は、少しでも楽をして稼ぎたい傾向にあると感じます。せっかく雇っても、すぐに辞めてしまう人が多く見られます。
横山委員	このような雇用の事については難しいことではありますが、このようなことも含め、行政は頑張っていたきたいです。
永澤委員	本当にヘルパーを採用するのも難しい現状です。色々と考えていただくようお願いしたいです。 地域の力を借りたまちづくりも良いと思います。そのためには介護の入り口として興味を持っていただく何か仕掛けが必要で重要なことです。 また、若い世代への関心を持ってもらう取組や啓発など、若い世代に知ってもらう取組を考えていただければと思います。
横山委員	他に何かありますか？
佐々木委員	認知症を発症し始めた、例えば要支援1の方が、医療との繋がりを持つ、改善への取組をするという仕組みについても考えていく必要があるのではないのでしょうか？
玉手委員	認知症に関しては医療ではできることが限られてしまいますから難しいですね。
横山委員	認知症の症状を抑える薬はあっても、現状は進行を止める薬がないです。本当に難しいことだと思います。

横山委員	他に何かありますか？
	(なし)
	終了 19 : 39

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和元年 8 月 2 日

委 員 \_\_\_\_\_

委 員 \_\_\_\_\_